

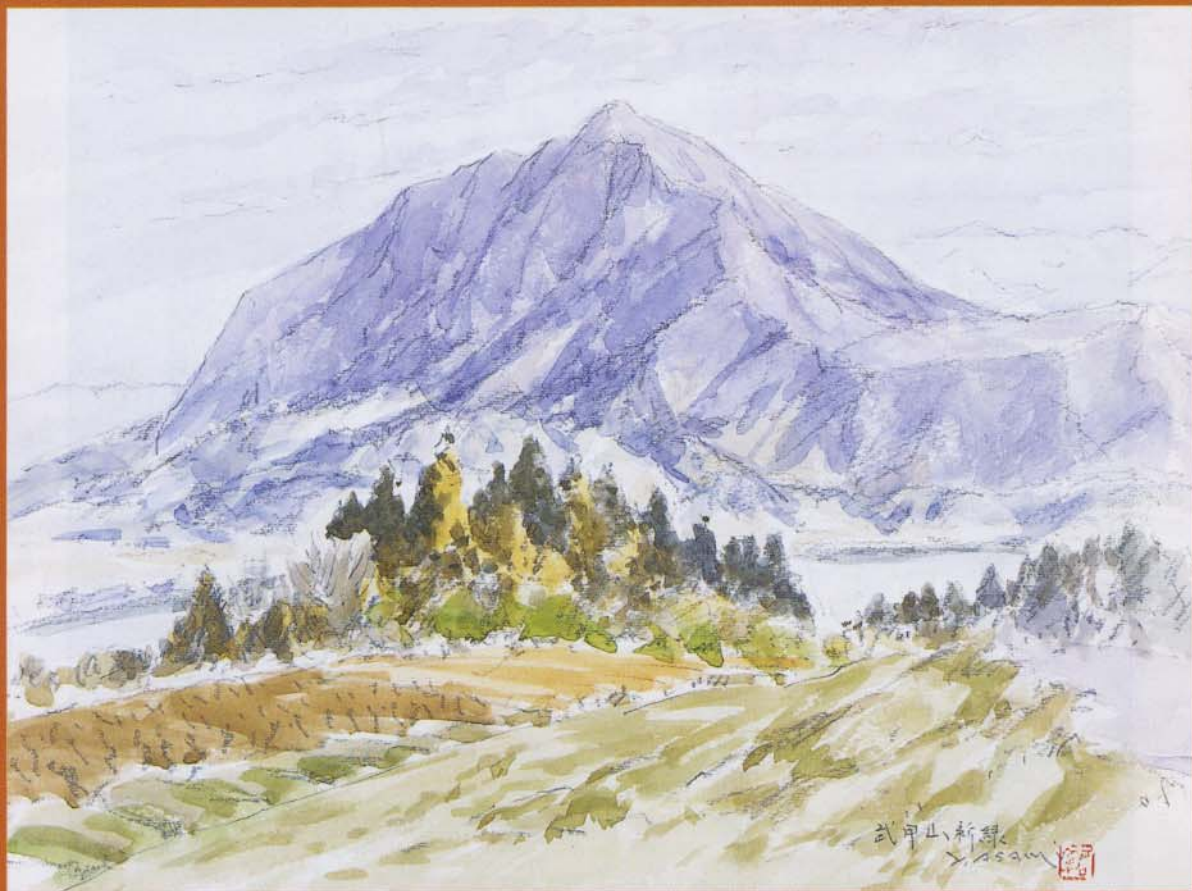
杜乃杵

秩父神社社報

杵乃杜（ははそのもり）

第 14 号

平成8年7月23日



いたしの

入て守り来い

日の本の

森の栄を

吾に願はむ

御製

水分みくまりの川瀬の祭り

あれほど厳しかった今年の冬枯れが　まるで嘘のように

わが故里ふるさとの山並みは　青葉いのちに包まれて夏の生命いのちに満ちています

氣遣われた空梅雨にも　どうやら生き抜くほどの風水に恵まれて

今年も水分みくまりの川瀬の神に　生まれ清まりの祭りを仕えることができます

昔の先祖たちは　水みくまりの山と清まりの河を神として祭り

近ごろの私たちは　山を崩し河を埋めてその恵みを忘れ勝ちです

せめてもの夏の盛りに山水さんすいに身を浸ひたして

日ごろの乾いた心を　共に湿うるほす祭りとしたいものです

解説 秩父神社 (14)

彩の国 名工会々々

坂本才一郎

◆秩父神社社殿

災害復旧工事覚書

(3)

御社殿再建資材を調達中、最も印象に残り、那須野與一さんがらに海中で思案したことは、東京營林署深川貯木場の海中にしまれた榎丸太の選材に行ったことである。修理委員会では早急に榎材を確保し製材して乾燥しないと、加工できないので、秩父營林署に榎材払い下げ申請書を提出した。秩父營林署でも地元神社の災害復旧工事であるので、全面的に御協力を戴いたが、補助事業であるので納期が短いのと、量が多いので、秩父營林署の後援のもとに東京營林署から出荷することになった。

書類の提出を完了すると、至急貯木場に来て選材してくれとの連絡があり、貯木場に行き指示によって保安帽、救命胴衣にゴム長に変装し、現場に行った。長さ二十尺の榎丸太を海の中に縦横に組んであり、それは二十尺四方の筏が約三間隔に碁盤目のようにならび、各筏は棧橋で連結され柱観であった。



丸太材の上は滑りやすく棧橋を歩行したが材質の良否は木口によって判断されるが、小波に揺れて明瞭でないし、筏の端には危険でゆけないし、選材方法の名案がなく海の上で立往生していたら、署の方が迎えにきたので事務所にもどり初めての体験で、良い勉強になりましたと御禮を申し上げて、書類の上で選材し、署名捺印して辞去したが、今でも強く印象に残っている貴重な体験であった。

社殿の解体

本殿は軸部材や組物まで極彩色で、極彩色は意外と日数を要する作業であり、これらが完成しないと建前も延期せねばならず、工程表と対照し、ぎりぎりの解体であった。解体は調査し写真を撮影しては解体するので、多くの貴重な発見があったが、その中でも工匠は中世の立派な遺構が現存する、信州や甲州から招聘した工匠と思われたが、本殿丸柱に天和二年(一六八二)生國ちち夫、大工組、藤田六左エ門の墨書を発見した時は涙がでるほど嬉しかった。

ここで秩父地方に多くの名建築を残した名匠藤田家の足跡を偲ぶことにする。

- ① 秩父神社社殿改修工事 (天和二年)一六八二 大工組 藤田六左エ門
- ② 宝登山玉泉寺本堂 (貞享四年)一六八七 大工武陽秩父郡大宮郷 藤田徳左エ門

③ 秩父札所一番観音堂(元禄十年)一六九七 大工棟梁 藤田徳左エ門

④ 下影森金仙寺本堂(元文二年)一七三七 大匠師秩父郡宮地 藤田文右エ門

⑤ 秩父市上町 秋葉神社本殿 棟梁 当郡宮地 藤田徳平藤原喬真

⑥ 秩父代官所玄関新築(文化四年)一八〇七 大宮郷大工棟梁 藤田大和

⑦ 秩父札所一番観音堂千鳥破風(文政十三年)一八三二 大宮郷宮地棟梁 藤田若狭藤原都彦

⑧ 三峯神社旧護摩堂(天保十三年)一八四二 当郡大宮郷宮地大工棟梁 藤田若狭都彦

⑨ 秩父札所十八番観音堂 格天井(天保十三年)一八四二 当郡大工棟梁 藤田若狭藤原都彦

⑩ 秩父祭宮地 屋台本芸座 開元(嘉永二年)一八四九 棟梁 藤田若狭藤原都彦

⑪ 三峯神社水屋(嘉永六年)一八五三 大宮郷宮地 藤田徳左エ門

⑫ 三峯神社水屋(嘉永六年)一八五三 大宮郷宮地 藤田徳左エ門



一間社流れ造の彫刻を多用した設計図

大工棟梁 藤田若狭

以上であるが、簡単に解説すると、②は宝登山神社の社務所に接する、彫刻すくめの玄関を構える建物で、玉泉寺本堂で弘法大師一代記の欄間彫刻は庄巻、③の一番観音堂は禅宗様式の内部の架構が特色。⑤の秋葉神社本殿は年号がないが寛政頃と思われる。⑩の宮地屋台本芸座開元は開眼で芸座の使い始めである。屋台の屋根の改修は藤田大和といわれ、特に独創的まろやかな唐破風を制作した。大和の高度な技術を賞賛し、長く伝承されたのであろう。いま藤田家に関係する資料は藤田大和の作図という一間社流れ造の彫刻を多用した設計図と、中宮地の浅見典司氏が所蔵する匠家の雛形本に藤田氏の署名のあるものを、かつて日野田町の佐野町馨氏が複写し、それを検分したものと、わずかに二点のみである。

「平成殿」上棟祭に仕えて

宮司 蘭 田 稔



センザイトー（千歳棟）、マンザイトー（万歳棟）、エイエイトー（曳々棟・永々棟）と、烏帽子と直垂に凛々しく身を固めた技師長の、重い白幣を振りかざしての掛け声が境内を爽やかに響きわたると、薫

風鮮やかにひるがえる三本の五色幣を立てて高々と張り渡された棟木を、白丁姿の技師二人がオーと答えて槌音高く三度打ち固める――。

当社待望の新崇敬会館「平成殿」の上棟祭が、新緑の五月二十日に、秩父建栄会の肝煎りで文字通り古式床しく執り行われるさなか、斎主を仕えた私もこの光景を見上げつ

つ、感無量の心地がいたしました。きっと同様に、この神事の主役として奉仕された晴れ姿の工事関係者たちや、参列された多数の奉賛会役員の皆さんも、感激ひとしおであったに違いありません。

申すまでもなく、この「平成殿」ならびに新斎館の建設こそが、当社の面目を一新すべき「平成御大典奉祝記念事業」の中核を成す事業計画でありますし、又そのためにこそ既に足掛け六年もの歳月を費やし、広く地元氏子崇敬者はもとより関係団体各位挙げてのご理解とご奉賛を賜りながら、その完遂に奉賛会一同力を尽くして参ったものであります。

幸いに昨年度の着工以来、天候にも恵まれ、又なによりも、当社にかねて尊崇の誠を尽くされる秩父建栄会の皆さんが、その面目に賭けてもと総力を挙げての施工の甲斐あって、僅かな事故さえ無く、きわめて順調に工事が進捗しつつありますことは、やはり関係者一同の人事を尽くす姿に神明の感応し給えばこそと、心から有り難く存じているところであります。

かくして本年の秋に両新館が無事竣工いたしますと、今冬の例大祭には、ひとまず関係者の皆さんに或る程度は活用していただけるもの

と期待しておりますが、本格的には、来春における本事業完遂の祝賀の折りに、その新装をご披露できることになると存じます。

この建設工事をもって、やがて本事業完遂のあかつきには、必ずや全国に名高い当社の秩父総鎮守にふさわしく、冬の大祭をはじめ数多くの由緒正しい年中祭祀や諸行事の一層充実した執行が叶う施設となるばかりではありません。それ以上にこの諸設備を活用することにより、秩父宮家関係の常設展示ばかりか、年間を通じた企画展示や催しの実地による活発な文化活動の場として、地元住民の各層各位はもとより多数の参拝客にも喜んでいただく〈神賑わいの施設〉となつて、当地方課題の地域活性化と観光振興に効果いちじるしい、マチ造りの

【表紙歌解説】

表紙のお歌は、平成の御代初めて開催された宮中歌会始（平成三年）において、「森」という勅題に際し、環境問題を大変お氣になされた今上天皇の御製である。

農林水産省の資料によると、昭和三十五年（一九六〇年）から平成二年（一九九〇年）までの三十年間に、およそ埼玉県の面積の十倍以上という三万八千四百畝の天然の森が消滅したと報告されている。この結果、天然林の代わりにスギ、ヒノキなどの人工林がつくられたが、時を経るにしたがつて自然環境に多大な被害が及んでいる。

古来の人々が大切に守り、畏敬の念を持ち続けてきた山や森。生命のみならずとある「水」も山や森からつくられていく。山や森を犯すということは、生きとし生けるもの全てを犯すということである。

私たち現代人は三十年という大変短い年月の内に大切に守り続けてきたものを破壊してしまったことを罪とし、そしてそれを被い清めるためにも森の栄えを多くの人々が共に願わなくてはと、痛感する今日この頃である。

拠点ともなるべきものと強く確信しております。

○

とは申せ、こうした所期の目標達成のための特に関連諸施設の充実には、いまだ数多くの工夫を要し、そのための更なる資金調達を含めて尚一層の事業努力を致さねばなりません。

立派に上棟祭を挙行できたことの喜びは素直に喜ぶとして、本工事にせよ本事業にせよ、これからが正念場と心得て関係者一同、あらためて覚悟を固めたところであります。

どうか皆さまにおかれましても、共に、秩父を愛する同志として、私も畢生の本事業にたいし、これこそかけがえのない故郷再生の核心とおぼしめし下さり、なにとぞ物心両面の熱いご協賛を、改めてお願い申し上げる次第であります。



氏子青年会会長 鈴木建志



平成八年度氏子青年会総会に於きまして、会員の皆様方にご承認いただき、新役員・新体制が発足致しました。平成二年四月に設立以来、恒例となりまして「観月コンサート」をはじめとし、「武甲山登山」「境内清掃」「視察旅行」「勉強会」等々、幾つもの事業を推し進めて参りましたが、本年度は更に新しい事業を考えて居ります。

全員参加の会運営を推進する為、各地区の役員を増員しましたので、会の活動や運営方法につきまして、ご意見、ご要望を何なりと伝えて頂きたいと思ひます。

又、事業部制を取り、各部会が横の連絡を更に濃密にとれるよう組織いたしましたので、各事業に対し、多くの皆様方のご協力をお願い致します。

幸い本年度は平成の御大典事業であります新崇敬会館 新斎館の落成の年度でもあり、十二支のはじまりの「子」の年でもあります。

「境内活動」から「秩父のまち造り」へと、一歩外へ踏み出す礎の年にしたいと考えます。会員は元より、多くの崇敬者の皆様が、新会館に出入りして頂き、併せて、氏子青年会の活動に際しまして、ご理解とご支援ご協力を切望し、新役員を代表してのご挨拶とさせていただきます。



川瀬祭の季節になりました。

氏子青年会前会長 浅賀克彦



平成八年度氏子青年会総会により、皆様方のご理解により会長を退任致すことになりました。恙無く大任を努められました事は、会員の皆様はもとより宮司様はじめ職員の皆様、関係各位の皆様様の心温まるご支援、ご協力の賜物と衷心より感謝と御礼を申し上げます。

げます。

在任中を振り返ってみました。六百名になろうとする会員を有する全国希にみる平均年齢も若い青年会になりました。今井会長以来の「観月コンサート」をはじめとした年令別若き年毎に活発化しています。加えて会員の健康造りにと「グランドゴルフ」も定番化しつつあります。反面、参加者が少なく企画倒れになった行事もありました。これからも、各部会を中心に様々な事業が、企画されますが、会員のご参加とご協力が必要不可欠です。各事業が成功する為に、是非多くの会員が、積極的にご参加ください。また、き友が出来る機会もあります。「参加」することが、氏青の第一歩です。一期一会の良きき友が出来る機会もあります。私も氏青六年間に、多くの人生の知己を得る事が出来ました事に、改めて感謝致しております。

最後になりましたが、秩父神社様と共に、鈴木新体制の氏子青年会が、21世紀への土台造りとなり、益々ご発展されます事を、会員皆様のご健勝を、ご祈念申し上げつつ退任のご挨拶と致します。

氏子青年会新役員名簿

名譽會長	順問	相談役	副會長	前會長	幹事部長	常任幹事	事務局																								
蘭田	今井	淺見	大嶋	山中	鈴木	今井	高野	中野	武島	大曾	小川	久下	小泉	原嶋	神井	新井	朝川	千島	長谷川	三上	児玉	井上	増田	浅賀	関根	松本	大嶋	原嶋	前原	岩田	神井
總代	奎吾	武史	英助	雅文	建志	康夫	祥介	俊彦	忠司	利夫	祐司	正司	賢	昭彦	義行	靖一	眞一	知一	孝夫	純司	宗二	清則	定男	豊	耕作	初男	太一郎	耕造	直雄	利雄	勝宏
神社	神社	神社	本町	上宮側	東町	東町	流の上	中町	中町	中町	中町	中町	中町	東町	中宮側	中町	上町	番場	東町	本町	本町	桜木	金室	宮側	金室	上宮側	上宮側	上宮側	上宮側	上宮側	神社

外幹事四十三名

神社職員

転勤のご挨拶

前権祢宜 新井君美



昭和六十二年の春より、この三月までの九年間、秩父神社の大前近くお仕えさ

せて戴きましたが、この度、諸般の事情から神社本庁教学研究所へ移籍出向する事となりました。宮司様をはじめ職員の皆様、また多くの氏子崇敬者の皆様方には今日までお導きを戴き、誠に有難うございました。今後この経験を生かし、斯界興隆のため微力ながら努力させて戴きたく考えて居ります。

豊かな歴史風土に培われた秩父の祭りと、そこに暮らす心根の温かな皆様方を、思い出します時に、たいへん懐かしく、また嬉しく思い出されます。杵乃杜に鎮まります大神様と共に、郷土が愈々のご発展を遂げられ、氏子崇敬者皆様方が益々お栄えてございますよう、遙か代々木の杜よりお祈りを申し上げ、御礼方々転動のご挨拶とさせていただきます。

秩父神社御大典奉祝事業

奉賛者御芳名 (8)

自平成七年十一月十五日 至平成八年六月三十日現在
(敬称略・順不同・但し金一万元以上奉納者)

東町地区

金五十万円

原田 賢

野坂町地区

金五万円

鈴木志登美

下山田地区

金一万円

内田 勝

温旧会秩父神社講

金一万円

前津 勝

小口 博

奥野 孝

南 昇

奥野 弘

黒澤 克彦

新井 清介

肥土 順一

神社扱奉賛金

金三百万円

(株) 高橋組
(株) 矢尾百貨店

金百万円

秩父市農業協同組合

南飯能病院

齋藤 文雄

金三十万円

丸井紙店 有泉次郎

金十五万円

秩父魚菜市場

諏訪神社敬神者一同

金十万円

上原 小枝

飯野 実

松山神社

宮司 前原将雄

麗山流剣舞吟詠会

会長 鈴木麗風外一同

田中今朝男

上武産業(株)

金五万円

薄平 寿郎

井上 巧雄

松本 政次

東京海上火災保険(株)

金三万円

金子 保子

兼松 俊雄

(株) 力ネタ

竹下 和夫

大川戸丈司

金二万円

笠原 昌二

金一万円

常陸神宝(株)

節分祭世話人奉賛金

金五万円

幸島 典男

追加奉納のご報告

金十万円(計六十二万円)

(神社扱) 柿島和枝

金十万円(計三十万円)

(神社扱) 北澤春子

金十万円(計十五万円)

(中村地区) 大沢武司

金七万円(計八万円)

(上町地区) 荒木英二

金五万円(計八万円)

(別所地区) 井上利吉

金三万円(計五万円)

(別所地区) 石川直幸

金三万円(計八万円)

(神社扱) 温旧会秩父神社講

金七万円(計三十一万円)

(神社扱) 入江重瑛

金二万円(計五万円)

(上野町地区) 浅見敬一郎

金二万円(計三万五千円)

(別所地区) 原嶋信義

金二万円(計五万円)

(上町地区) 木村行功

金二万円(計三万円)

(神社扱) 西村雅年

金一万円(計二万円)

(神社扱) 神山光以

ふくろう

梶だより



◆井上 久 奉賛会長

県議会議員当選のこと



当社大総代にして現在奉賛会長をお務めの井上 久様に於かれては、去る六月二十三日に行なわれた埼玉県北一区県議会補欠選挙に際し、高得票の信認を得て県議員に当選されました。

井上 久様は長い間、秩父郡市医師会長、埼玉県医師会副会長を務められており、当社奉賛会長には平成二年三月に就任になられました。

今後は県議会議員のお仕事と奉賛会長のお務めの日々と何かとご多忙の毎日と存じますが、ご健康にご留意賜りまして愈々の御活躍を只管祈念致す次第です。

◆浅見武史称宜

神社本庁規程表彰受賞のこと

例年二月三日、その年度の功績

者に贈られる神社本庁定例表彰において、当社浅見武史称宜が表彰規程第三条第二号

奉仕神社ノ造営復興ソノ他神社ノ施設経営ニ特別ノ功労アル者

に認められ、五月二十二日に催された神社本庁五十周年記念式典で表彰された。

浅見称宜は大学卒業後、美濃國一宮、旧國幣大社の南宮大社に奉職後、昭和四十九年故郷の当社権称宜に就任、平成元年称宜に任命された。この度の平成御大典奉祝事業においても多方面にわたり活躍している。

◆新井直行権称宜

新井直行権称宜は、二月十一日付で神社本庁より神職身分二級昇進となり、三月四日埼玉県神社庁に於いて伝達式が行なわれた。

◆職員辞令

権称宜 新井君美 願により職を免ず。

(三月三十一日付)

巫女見習

田嶋美代子 巫女を命ず。
森前 淳子 巫女を命ず。

(四月一日付)



ははそスケッチ

第十四号より「ははそスケッチ」と題し、柞の杜に生育する植物を描き社報で紹介することとなりました。

第一回は、新崇敬会館の工事に伴い旧斎館の中庭から移植され、職員の努力により、この春愛らしい淡紅色の花をつけた垂桜（しだれざくら）を紹介しました。

樹齢は約百十年と言われ、高さも約二十メートルと大変大きく成長しています。垂桜はエドヒガンの一変種とされ、別名「糸桜」とも呼ばれ、花の色が淡いことから、「しとやか」という花ことばがつけられています。

植物のスケッチは職員の守屋権伸宜が趣味である水彩とバステルで描きました。これから毎号シリーズでお届けしますのでお楽しみください。



四條流庖丁式奉納

三月十七日秩父地方では珍しい庖丁式が四條流総本部の土井柏雅正師範をはじめ八名の門下の方々により奉納されました。

小雨模様の中、正午より本殿にて奉納報告祭が斎行され、その後本殿前の参道において、

第一部「梅見の鯉」佐藤柏嶺氏
第二部「長命の儀」埼玉県彩の国名工 斎藤柏鳳氏
のお二方が大俵の上の魚を庖丁と箸だけをつつかい見事な技を披露して戴きました。

当日参列した秩父市観光協会、協賛後援者約六十名の他、参拝に訪れた人々は、古式に則った庖丁式を真剣な眼差しで見守り続け、奉納後、土井正師範より「魚鳥類をはじめとする万物に感謝できる良い機会を与えて戴けたことに感謝したい。」と感想を述べられ、又秩父での春の彼岸の恒例行事にしたいとも述べられました。

表紙説明



この度の表紙は秩父市坂水にお住まいの画家浅見嘉正先生にこの社報のために特別に描いて戴いた作品であります。

「新緑の季節を迎えた武甲山」と題し、春の穏やかな風景のなかにも躍動する若い息吹と生命の力強さが感じられます。浅見先生は横瀬村に生まれ、幼い頃から武甲山とともに生活をしてきたと言われます。

「緑豊かな山容をして村を見守るように聳え信仰の山であるとともに生活に密着した山、武甲山。」

日照りが続く武甲山様に雨ごいをお祈りしたり、山にかかる雲を見て天候を占い農作業への目安としたり、また山のおまつりには、学校が休みになり花火が打ち上げられ、朝暗いうちから山に登り村人みんなで拝み、その日の嬉しさは未だに印象が深い。その武甲山も石炭岩の採掘により私達の生活に与えた恩恵も大きいのが失われたものも大きい。どんなに傷だらけになっても武甲山は私の故郷そのもののなのです。

と武甲山への想いを語って戴きました。先生は現在一水会常任委員、日展委嘱、秩父美術家協会会長を務め、常に意欲的な活動を続けておられます。

編集後記

■秩父の夜空を彩る新しい夏の風物詩の誕生となるこの年。ここに川瀬祭を迎え、社報「柞乃杜」第十四号をお届けします。

■昨年从今年にかけての冬は、自然界に多大な影響を及ぼしました。冬にしては珍しく、降水量が例年の半分程度とかなり少なかったためダムの貯水量も下がり地域によっては、取水制限まで実施されるほどでした。

■また低温の日が長く続いたことも重なり事態はさらに進み、この春、数十年前に一度という、山々の木々や竹林などが異常なまでに枯れるという現象にみまわれました。

ひとつパラソクが崩れると次々と波紋のように広がりをみせる自然界の力。■私達日本人の生活のバランスも、いつの間にか崩れ、人間関係の乾いた利己的な社会生活が加速度的に進むことを警告しているかの様に、この度の現象は、自然界から私達に対しての貴重なシグナルなのかもしれません。

平成八年（一九九六）七月二十三日
編集 秩父神社社務所

〒366 埼玉県秩父市番町一〇一
TEL (0486) 221-0262
FAX (0486) 241-5596
印刷所 有限会社 拓文社印刷所
〒366 秩父市東町二七一八